

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	7月	17日	(記入者) 東辻裕子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	香芝市：専称寺の木造十一面観音菩薩立像、木造阿弥陀如来立像				

所在地	香芝市畑七丁目9番7号				
所有者(取材 対応者)名	専称寺(専称寺 中川隆宏住職) (個人情報守秘)			連絡先	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：香芝市、専称寺				
市町村 指定文化財	彫刻	2 軀	木造十一面観音菩薩立像 1995(平成7)年3月9日指定 木造阿弥陀如来立像 1997(平成9)年3月27日指定		
		建造物	棟		
文化財指定理由	十一面観音立像：典型的な平安時代の特徴を持っており、市内で古例の木造仏と言われているため 阿弥陀如来立像：市内に同時代の類例がなく、空白を埋める貴重な仏像であるから				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
	防火対策	消火器を設置。
獣害対策	被害の有無、対策など	記入者の感想
	被害、対策ともに無い。	所感無し。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	創建後、何度も焼失と再建を繰り返してきた。最後の火災は江戸時代の享保の頃で、その後に仏像の修理をしている。十一面観音像については金箔を施したり冠などの飾りが新しく取り付けられた状態で現在に至る。ご住職の話では、後補のものは取り外してなるべく元の形で祀りたいとのこと。信仰の対象であるため、観光目的の拝観はお断りされている。今後も信仰仏として祀り続けたいとのことである。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

観光目的の拝観は断られているが、庭のシダレザクラの開花期だけは一般参詣者へ公開している。ただ頑なに受け入れないのではなく、檀家と強い信頼関係を築きながらもサクラをとおして一時的に一般客を受け入れ、均衡を保っているように見えた。

市町村指定文化財取材票《裏》①

取材日	2023年	7月	17日	(記入者) 東辻裕子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	香芝市：専称寺の木造十一面観音菩薩立像、木造阿弥陀如来立像				

＜写真撮影許可済み＞

文化財指定名 木造十一面観音菩薩立像

文化財（正面写真）	文化財
	
<p>お堂内部の様子</p>	<p>説明板</p>
	
<p>文化財の由緒などを記入</p>	<p>所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入</p>
<p>ヒノキ材の一木造りで平安時代中期（10世紀）頃の作と言われており、香芝市では現存する最古の木造仏である。『専称寺歴代名記』によると、もとは観音堂とともに市兵衛屋敷に保管されていたが、寛保元年(1741)に専称寺境内に移したと記録されている。なお、現観音堂は1989年に新しく改築された。（専称寺HPより抜粋）</p>	<p>この地域は古墳時代から飛鳥時代にかけて交通の要所であった。日本で最初の官道といわれる竹内街道も近くを通る。専称寺は平安時代末期に創建された真言宗系の寺院と伝わり、何度か焼失している。現寺院は天正十年(1582)に一蓮社向誉上人（浄土宗の僧侶）による開基と『永代雨笠帳』（天保十二（1841）年記）に記されている。 （専称寺HPより引用）</p>

市町村指定文化財取材票<裏>②

取材日	2023年	7月	17日	(記入者) 東辻裕子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	香芝市：専称寺の木造十一面観音菩薩立像、木造阿弥陀如来立像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 木造阿弥陀如来立像

文化財 (正面写真)	文化財 (安置状態の写真)
	
山門からの写真	説明板



平成八年五月、香芝市指定文化財
 専称寺・木造阿弥陀如来立像
 像高九六〇／鎌倉時代前期
 専称寺本尊の阿弥陀如来立像は、檜材の寄木造で造られて
 います。胸などの肉身部は金を膠で溶いた金泥で
 衣部は漆を塗った上に金箔を押しした漆箔仕上げとして
 います。光背は舟形光背で、台座は割踏蓮華座ですが、
 ともに後世に造り替えられたものです。
 全体的に安定感のある充実した像容で、背面も丸み
 ある柔らかな表現となっています。
 市内には、同時代の類例がほかに知られていないこと
 から、空白を埋める貴重な仏像です。
 令和四年 香芝市教育委員会

文化財の由緒などを記入 所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

鎌倉時代前期の作で、ヒノキの寄木造。胸などの肉身部は金泥、衣部は漆箔仕上げである。光背は舟形後背で台座は割踏蓮華座であるが後世に造り変えられたもの。全体的に安定感のある充実した像容で背面も丸みのある柔らかな表現である。両脇に観音・勢至菩薩の阿弥陀三尊形式で安置されている。

境内には奈良県で最も早く咲くというシダレザクラがある。樹齢200年以上といわれ、「尋源桜」（じんげんざくら）とも呼ばれる巨木である。たった1本で境内いっばいに枝を張り巡らせ、春になると美しく境内を彩る。また、花後は青々とした葉が寺院全体を埋め尽くすように広がる。